

若手の採用対策

Q. 社員の高齢化が進んでいるが、若手の採用が難しい。どうすればよいか？

要旨 若手の採用のためには、最近の若者の意識動向も踏まえる必要があります。ワーク・ライフ・バランスの重視や、良好な職場の人間関係づくりなど会社の労働条件や労務管理の改善を図ることが大事です。また、ホームページの改善なども重要な採用の条件となります。

解説

1. 最近の若者の意識動向

最近の若者の意識動向について、二つの団体の調査結果を紹介します。

○三菱 UFJ リサーチ&コンサルティングの新入社員アンケート調査（1,409 名、2018 年）

・新入社員は会社は何を望んでいるか？（三つ選択可）

1 位「人間関係が良い」、2 位「自分の能力の発揮・向上ができる」、3 位「残業がない、休日が増える」、4 位「給料が増える」。1 位・2 位は毎年不動の順位だが、賃金の上昇と休日増を望む傾向が増えているようです。

・残業に対する考え方

残業に対して否定的な見方を持つ人の割合が上昇しており、残業よりもワーク・ライフ・バランスを保つことの方が重視されています。

○日本能率協会の新入社員アンケート（384 名、2019 年）

・「仕事をしていく上で不安を感じていること」（三つまで選択可）の調査では、「仕事での失敗やミス」と「上司・同僚など職場の人とうまくやっていけるか」が同率でトップ。職場の人間関係を重視する姿がうかがえます。

・「転職を考えるシチュエーション」についての調査では「ハラスメントにあったとき」が圧倒的多数（8 割）です。
・「働く目的」の調査では「自分の能力を高める」（49.7%）、「仕事を通じてやりがいや充実感を得る」（42.4%）に続いて、「社会の役に立つ」が前年調査よりも 10 ポイント上昇の 37.5%。「会社が社会の役に立っている」ことを重視する傾向が増えています。

これらの意識動向からも、会社の労働条件の整備、残業時間の削減や休日増、職場の人間関係、会社の経営理念の整備などの対策が重要になっています。

2. 若者採用対策のために

若者の採用のためには、ハローワークへの求人票提出だけでなく、各種の求人サイトへの登録、高校や大学訪問、インターン制度の導入などあらゆる手立てを打つことです。

同時に、特に会社のホームページを若者の意識にかみ合った内容に充実させることも必須といえます。

若者採用のためには事前対策と採用対策の両面の対策が必要

＜ご提案のポイント＞

- ・最近の若者はワーク・ライフ・バランス志向が強いため、残業時間の削減、休日増など若者が働きやすい環境づくりを行う必要があります。
- ・職場の人間関係、特にハラスメントは最大の退職理由となっています。
- ・「社会の役に立つ会社」を選ぶ傾向もみられはじめており、会社の社会的存在意義など経営理念を若者に魅力あるものとして打ち出した方が良いでしょう。
- ・若者は就職を検討する際、必ず会社のホームページをチェックしています。ホームページを確立することや内容を充実させ魅力あるものにします。
- ・ハローワークに求人票を出すだけでなく、さまざまなサイトに登録する、学校訪問活動などの採用対策を検討します。インターン制度なども検討してみましょう。

1. 若者にとって魅力ある会社を作る

最近の若者は仕事と生活の両立する働き方を求めています。残業時間の削減、1日8時間、週40時間の法定労働時間内での就労、休日の確保など、ワーク・ライフ・バランスが保障される労働条件となっているかチェックします。

2. 職場の人間関係を指導のあり方も含めて改善を図る

若者が良い会社であるかどうかを判断するもう一つの基準は、職場の人間関係です。特にハラスメントのない職場づくりに努めます。上司からの指導も、「背中を見て覚えろ」というスタイルではなく、丁寧にアドバイスし、若者の相談にも乗るよう改善を図ります。

3. 魅力ある会社の存在意義を宣伝する

最近、若者は会社を選ぶ基準として、「社会に役立つ」会社であるかどうかを重視しており、会社の経営理念も含めた魅力の見直しと宣伝の強化が大事です。

会社の規模や業種によってさまざまな魅力があります。中堅企業なら中堅企業なりに業界の中での役割などがあり、中小企業なら大企業にはない総合的な技術や知識を身に付けられるという魅力があります。そうした会社の魅力をさまざまな機会を通じて宣伝します。

4. 各種の採用活動の工夫

若者の採用のためにやれることはたくさんあります。多くの就職サイトへの登録、高校・大学の就職課への訪問、社員・取引先のつながりなどを活かした名簿を作成し系統的に採用活動を行う、インターン制度などを導入することも検討してもよいでしょう。

また、若者は就職先を検討する際に会社のホームページを必ずチェックします。ホームページを確立し、スマートフォンで見られるようにするなど工夫してください。